

ご注意／御礼／お 願い／ご紹介など

少し書きにくいお知らせや御礼・お願い・ご紹介・定例の催しをご案内するページです。いつも読んでくださる方には、いつものご案内でも、始めて読んでくださる方には、始めての新鮮なご案内です。

※ご注意ください

左記の業者は、数年前に無許可で松岩寺霊園内を調査して自社のための営業用資料を作成したと思われます。確実な情報がなかったため、処置しませんでした。今回新規墓地の工事を無断で着手したため、厳重に抗議いたしました。墓地の環境をまもるため、当分のあいだ松岩寺霊園内に立ち入ることを禁じます。

【出入り禁止石材店】

「平成堂」 熊谷市代宮下原766-3

出入りを禁止している石材店は、その都度お知らせしていますが、他に2店、合計3店あります。各家で大きい改修をする時などは、寺へご確認ください。

※霊園管理費納付御礼

霊園管理費を大多数の方に納付いただきありがとうございます。ご紹介します。ただ、数軒のお家で未だ納付いただいておりません。お納めくださるようお願いいたします。振替用紙を紛失された方はお申し出ください。なお、郵便振替の口座番号は（00150・0・372690・松岩寺霊園管理費）です。一般の振替用紙で郵便局の窓口から送金くださっても結構です。

※各家墓所の改修時は

各家の墓所を大きく改修する時は、施工する石材店に工事をする上での注意事項などがありますので、寺にご連絡ください。

なお、墓地を整備したため、十カ所ほどの新しい区画があります。ご親戚やお知り合いが必要とされる方がおられましたら、お頒けすることができます。詳しい事は寺へ直接連絡ください。

※年忌法要後の食事は寺でもできません

壇信徒会館（三階建）は、年忌法要後のお食事にお使いいただけます。壇信徒会館の二階は椅子席で十八席。三階は畳に座布団で四十名くらいまで会食できます。お使いください。

をつくのはなぜか。忘れないためですね。

今回の大地震は現在進行中ですから、四十九日くらいで忘れはしないけれど、ヒロシマ・ナガサキの日をきちんと憶えていますか。八月十五日と聞いて何の日かわかる小学生は何人いますか。「年をとって物忘れがひどくなった」

などと嘆かないでください。人間は忘れるようにできているのです。ぜんぶ憶えていたら、窮屈で生きていられない。

けれども、お釈迦さまは2500年ほど前の人だけど、忘れられてはいない。キリストさまだって、2000年前の人。忘れるか忘れないかは、反復してわすれないようにする努力を続けるかどうかにあると思います。お釈迦さまの誕生日、四月八日には花御堂を山門におきます。お釈迦さまが亡くなった二月十五日を中心とした二週間くらいは、本堂の間には涅槃図をかけます。これは、忘れられないための努力です。

あるいは、一昨年は京都にある本山妙心寺をつくった無相大師の六百五十年遠忌という行事がありました。松岩寺からも四十数名の方と一緒に京都の本山をお参りしました。これも、無相大師という方を忘れないため、あるいは始めて知る機会だったわけです。

妙心寺の六百五十年遠忌は一昨年で全部の事業がすべてが片づいたかという、まだ記念事業というのが完成していません。どんな記念事業かという、劣悪な状態にある妙心寺の文化財をまもる収蔵庫をつくるか、禅に坎する研究者への奨学金制度を作るとか。こういった事業を今年の四月から始める予定だったので。そこへ大震災。わが妙心寺教団はどうしたか。四月から予定していた記念事業を全部いったん休止してしまつたのです。大震災で被害をうけた妙心寺派に属する寺院の復興資金と、その檀家さんへ相当額のお見舞い金をおくるために、文化財や奨学金は

日曜の朝の坐禅会（八月は休会です）

毎週日曜日の朝六時から七時まで、松岩寺本堂での坐禅に一般の方も参加できます。朝六時に鐘をつきますから、それまでに本堂に入ってください、初心の方にも丁寧に坐り方をご案内します。

三十分ほど坐って休憩、残りの十五分ほど坐って、最後に般若心経をよんで七時には終わりです。ごいっしょに姿勢をただして、呼吸を調べてみませんか！

教養講座

【金つぎ教室】日程 講師 花輪滋實

第三土曜日午後一時半～四時半まで

【仏像を彫る会】日程 講師 高野竜生

午後一時半～四時半まで

原則として第二・四日曜日です。

少し我慢してもらおうというのです。

自分の所属する教団を誉めるのは、あまり聞きやすいものではないでしょうが、これって潔いことではないですか。潔いとは、すっきりしていて決断の早いことです。

伝統教団は、新興の宗教にくらべて社会状況への反応が遅いと批判されてきました。汚名返上というわけではないけれど、地震発生から数日後には650年の記念事業をすべて凍結した妙心寺教団です。

ところで、幕末の禅僧・良寛和尚（1758～1831）も晩年に越後の大地震に遭遇しました。その時にこんな言葉をのこしています。

災難に逢う時節には災難に逢うがよく候。死ぬ時節には死ぬがよく候。是はこれ、災難をのがるる妙法にて候
解釈の仕方によっては批判をうける言葉ですが、「災難にあつて、良い方向に進路をとるためにはよそ見なんかしないで、逃げることなく真っ正面から災難を見つめるんだよ」といった意味でしょうか。そして、こんな結語の漢詩を書いていきます。

君に勸む、早く事を終え

帰って南畝（なんぼ＝南側）の田を耕せ

無常を受け入れて日々の仕事に立ち戻ろうという「がんばろう日本」の幕末・良寛バージョンといえよばよいでしょうか。

さて、冒頭で書いたように4月29日の真つ昼間に大震災犠牲者追悼の大鐘をついたのですが、その数十分後、電話がかかってきました。

「さっきの鐘はナンのか図ですか。数年前の先住職のお葬式の時に、鐘がなりましたけれど、ご住職お身体だいじょうぶ？」

というわけで、朝晩以外にも鐘をつくことがあるという言い訳の文章でした。（住職記す）



8月13日未明から16日夕方まで、墓地ではお花とお線香を用意しています。

大震災の四十九日忌にあたる四月二十九日の午後二時四六分に寺の大鐘をつきました。全日本仏教会からの要請です。もちろん、松岩寺だけへ求められたわけではなく、加盟する全国七万五千ヶ寺への要請でした。全日本仏教会は伝統的仏教教団が組織する連合体です。

朝晩以外に鐘をつくことは、年に数回あります。たとえば、広島に原爆が投下された、八月六日午前八時十五分に鐘をつきます。八月九日午前十一時にもつきます。長崎への原爆投下時間です。八月十五日正午にもつきます。先の大戦の終わった瞬間です。それぞれの理由でそれぞれの時刻に鐘